

Press Release

2009年7月31日
王子製紙株式会社
王子ネピア株式会社
財団法人日本ユニセフ協会

トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい ネピア-ユニセフ タイアップキャンペーン

「nepia 千のトイレプロジェクト 2009」

～あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる～

みなさまからのご支持を力に、2年目へ 2009年9月1日(火)～12月31日(木)まで日本全国で展開

王子製紙株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:篠田和久、以下王子製紙)、王子ネピア株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:林 孝治、以下王子ネピア)、及び財団法人日本ユニセフ協会(所在地:東京都港区、会長:赤松良子、以下日本ユニセフ協会)は、開発途上国のトイレと水の問題を改善することを目的として昨年立ち上げた、「nepia 千のトイレプロジェクト」に本年も引き続き取り組み、2009年9月1日(火)から12月31日(木)までの4ヶ月間、日本全国でキャンペーンを展開致します。

王子製紙グループは、「環境と文化への貢献 革新とスピード 世界からの信頼」を企業理念に、世界中での植林活動をはじめ、社会への貢献活動に取り組んでおります。また、王子ネピアは、“やわらかハート”のスローガンのもと、日ごろから、すべての製品と企業活動を通じて皆様の健康的で快適な暮らしのお手伝いを目指しております。

一方、世界では毎年150万人を超える5歳未満の子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。家庭の衛生に携わる製品をお届けする企業である王子ネピアは、王子製紙グループの一員として、世界の「トイレと水の問題」を見つめ、国際衛生年である昨年、本プロジェクトを立ち上げ、多くのご支持の中、目標を上回る成果を達成することが出来ました。(【参考資料】資料①参照)

2年目の実施となります本年、「nepia 千のトイレプロジェクト 2009」では、キャンペーン期間中にお客様にお買い上げ頂いた対象商品の売上の一部で、ユニセフの「水と衛生に関する支援活動」をサポート。昨年に引き続き、アジアで一番若い独立国で、国づくりが進む今が重要な時期である、東ティモール民主共和国(以下、東ティモール)を支援対象国として、1,000の家庭でのトイレ建設と、5つの学校でのトイレと給水設備の建設または修復、および、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援し、ネピア商品を選んで頂いたお客様の想いと共に、東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守ることを目指します。

昨年のキャンペーン終了後(2008年12月・2009年6月)、二度にわたって、王子ネピア社員が東ティモールを訪れ、昨年の支援地域での成果、及び本年の支援対象地域の状況などの視察を行い、ウェブサイト(<http://1000toilets.com>)でレポート致しております。また、新聞、雑誌などによる告知のほか、今年も視察に同行したフォトグラファー小林紀晴氏(【参考資料】資料②参照)の写真を起用したプロジェクト告知パッケージ商品を販売(2009年9月より数量限定販売)し、販売店様のご協力のもと、店頭を通じた告知活動も行います。

王子製紙、王子ネピア及び日本ユニセフ協会は、「nepia 千のトイレプロジェクト 2009」を通して、我が国において、世界の「水と衛生の問題」への関心を高め、理解を深めることに努力して参ります。

■ 支援対象国



東ティモール民主共和国



東ティモール民主共和国は、2002年5月に独立したアジアで一番若い国です。建国以来、国際社会の協力を得ながら国づくりが進められていますが、国民の10人に4人以上は、1日1~2米ドル以下の生活を強いられています。5歳未満児の死亡率は出生1,000人あたり130人に及び*、アジアの中で子どもの生存が厳しい国のひとつであり、汚れた水とトイレの不備から、5歳未満の子どもの5人に1人が下痢をわずらっています。特に農村部のトイレと水の環境改善は緊急の課題であり、2008年のユニセフ資料によると、農村部の人口の77%がトイレを利用できない環境にあること、61%の学校がトイレと給水設備の改善を必要としていることが分かりました。

※ユニセフ・東ティモール事務所調べ

■ 2009年のプロジェクトの目標

本年は、東ティモールの3つの地域(エルメラ、リキサ、アイルウ)を対象に、トイレの建設、修復、衛生概念の啓発、衛生習慣の定着活動を通じて、子どもたちとその家族が健康に暮らせる環境づくりを支援します。トイレの建設を含むプロジェクトの実施にあたっては、ユニセフが資材を提供し、ユニセフや現地NGOの指導・協力のもと、住民が主体となって、建設作業や啓発活動が実施されず。

①1,000の家庭でのトイレの建設

本年も新たに、対象地域のおよそ1,000の世帯に、家庭ごとの専用のトイレを設置します。トイレは農村部で持続的に使用できるシステムを採用し、各世帯が主体となって、それぞれの生活に合ったトイレを作ります。



トイレの穴掘りの様子。



完成した家庭用トイレ。



天井や囲いは、住民みんなで身近にあるものを使って建設します。

②5つの学校でのトイレと給水設備の建設または修復

本年は、対象地域の5つの学校で、給水設備と手洗い場のついたトイレの建設又は修復を行います。学校にトイレがあると就学率が上がり、また中途退学率が下がることが明らかになっています。



修復された学校のトイレ。



学校のトイレの中の様子。
手洗い場も併設されています。



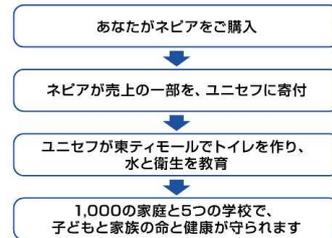
新しく建設された学校のトイレ。

③衛生習慣の普及活動

対象地域においては、衛生に関する病気を減らすために求められる、様々な知識や衛生習慣の普及、啓蒙の活動が実施されます。また、ラジオや新聞を通じての衛生習慣の啓蒙も行われます。

■ プロジェクトへの参加方法

2009年9月1日(火)から12月31日(木)までのキャンペーン期間中、キャンペーンの対象となるネピア商品をお買い上げになるだけで、どなたでもプロジェクトに参加することができます。



また、郵便振替での募金でも、このプロジェクトに参加することができます。

◆郵便振替口座:00190-5-31000

◆口座名義:(財)日本ユニセフ協会

※ 通信欄に「ネピア」と必ず明記ください。

※ 窓口でのお振込の場合は、送金手数料が免除されます。

郵便振替での募金の場合は、日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。(日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは日本ユニセフ協会のホームページ <http://www.unicef.or.jp> をご覧下さい。)

■ キャンペーン対象商品



プロジェクト告知パッケージ商品

プロジェクトを広くお伝えするため、プロジェクトの告知をデザインした商品も数量限定で販売致します。



※イメージ画像です。

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>

「nepia 千のトイレプロジェクト 2009」

王子ネピア株式会社 マーケティング部 担当 齊藤、高瀬

Tel:03-3248-2855/Fax:03-3547-1454

【参考資料】



資料①

■ 2008年のプロジェクトの実績

2008年は、7月1日から10月31日までの4ヶ月間をキャンペーン期間とし、期間中のお買い上げの一部から、総額で2,043万円の寄付が実施出来ました。これにより、以下の支援が実現しました。

- ① エルメラ、リキサ、マナウトウ、ディリ各県の村における約1,200の家庭用トイレの建設
- ② エルメラ、リキサ、オエクシ各県の15の学校におけるトイレと給水設備の建設や修復*
- ③ 衛生に関する病気を減らすために求められる適切な衛生習慣の普及活動
- ④ TVやラジオを通じた衛生習慣の啓蒙活動や教材の制作

※学校における支援活動は、ユニセフが費用の一部を拠出しています。

* 家庭用トイレの建設数

地域(県)	地区の名前	トイレの建設
Ermera	Ponilala	597
Ermera	Poetete	208
Ermera	Lauana	63
Liquica	Tibar	60
Manatuto	Batara	86
Manatuto	Sananain	47
Dili	Hera	177
合計		1,238

※2009年7月現在、このうち、44のトイレは建設中のトイレです。

* 学校のトイレと給水設備の建設と修復

地域(県)	地区の名前	トイレまたは水の設備の建設・修復を行う小学校の数
Oecusse	Bobometo	2
Oecusse	Beneufe	2
Oecusse	Usitasae	1
Oecusse	Cunha	1
Oecusse	Bobomento	1
Oecusse	Costa	1
Oecusse	Usitako	1
Oecusse	Lelaufe	1
Oecusse	Nipan	1
Oecusse	Aban	1
Ermera	Ponilala	2
Liquica	Tibar	1
合計		15

※学校における支援活動は、ユニセフが費用の一部を拠出しています。

* 衛生習慣の普及活動の様子



©UNICEF/Timor-Leste

対象地域では、現地NGOによって村の住民たちへ、衛生に関する様々な知識や衛生習慣の普及、啓蒙の活動を、教材などを使用して行われます。

資料②

■ フォトグラファー 小林紀晴氏について



【プロフィール】

1968年、長野県生まれ。アジアの旅先で出会った日本人の若者の姿を写真と文章で綴った「ASIAN JAPANESE」でデビュー。多くの若者の絶大な共感を呼ぶ。「DAYS ASIA」で1997年度日本写真協会新人賞受賞。日本で最も注目される写真家のひとりとして、次々と意欲的な創作に取り組んでいる。最新の写真集は、「はなはねに」。

■ 王子製紙について

王子製紙グループは、日本で初めて本格的な近代産業として製紙業を開始しました。創業者である渋沢栄一翁の言葉「論語と算盤」、すなわち道徳と経済の合一、倫理と利益の両立という理念を受け継ぎ、事業遂行の基本的精神を表現するものとして、「環境と文化への貢献」、「革新とスピード」、「世界からの信頼」を企業理念としています。「環境と文化への貢献」では、王子製紙は1873年の創業以来約130年間、「読む」「書く」「包む」「拭く」生活のさまざまな場で用いられる紙の安定供給を通じて文化に貢献する会社であることを基本理念としてきました。同時に、森のリサイクル、紙のリサイクルの推進により積極的に環境保全と循環型社会に貢献する企業であることを目指しています。具体的には、海外での植林を1970年代からはじめ、現在では植林面積を30万ヘクタールに拡大するという目標を掲げ、取り組んでいます。(http://www.ojipaper.co.jp)

■ 王子ネピアについて

王子ネピアは、企業理念である「生活文化への貢献 環境への貢献 社会からの信頼」のもと、“やわらかハート”というスローガンを掲げ、すべての商品を通じて皆様の快適な暮らしのお手伝いを目指しております。ティッシュやトイレットロールをはじめとしてキッチンタオル、赤ちゃん用紙おむつ、大人用紙おむつにいたるまで、お客様の生活に幅広く密着したかたちで、やわらかな肌ざわり、やわらかな使い心地の追求を続けて参りました。また、社会貢献活動としては、女性の健康ばかりでなく女性を取り巻くすべての人の「幸せを守る」という活動の趣旨に共感し、2003年から「ピンクリボン運動」への協賛を続け、また、2007年からは、本プロジェクトのきっかけともなった、うんちを通して健康を考える「うんち教室」を日本トイレ研究所と共に日本の首都圏の小学校で実施しています。(http://www.nepia.co.jp)

■ ユニセフについて

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界150以上の国と地域で、生誕から青年期まで、子どもたちの健やかな成長を守るために活動をしている国連機関です。ユニセフは、開発途上国で男女を問わずすべての子どもたちに保健や栄養、水と衛生、教育などの基本的なサービスを普及、また、暴力や搾取、HIV/エイズの脅威からの保護など様々な支援事業を展開しています。活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金と、各国政府からの任意拠出金で支えられています。

40年以上にわたり、ユニセフは安全な水と衛生施設を必要としている人々に提供するためのプログラムを実施しており、井戸やトイレの建設や水と衛生に関する啓蒙活動を展開しています。「安全な水と衛生の確保」はユニセフが中期事業計画(2006年～2009年)で掲げる5つの重点分野のひとつ「子どもの生存と発達」に含まれる事業で、様々な政府機関やNGO等のパートナーと協力しながら活動しています。東ティモールでは、2000年以降、水と衛生分野への活動を実施しています。(http://www.unicef.org)

■ 日本ユニセフ協会について

財団法人日本ユニセフ協会は、先進国36カ国にあるユニセフ国内委員会のひとつで、日本国内において民間で唯一ユニセフを代表する組織として、ユニセフ活動の広報、政策提言(アドボカシー)、募金活動を担っています。(http://www.unicef.or.jp)